

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

第4回シンポジウム

玉川上水系（玉川上水・分水網・外濠・日本橋川）保全再生への道

資料集-1

プログラムと提言案等

目次

- | | |
|-----------------|---|
| 1. プログラム | 1 |
| 2. 大臣・知事のメッセージ | 2 |
| 3. 三大学総長・学長の提言 | 4 |
| 4. 第4回シンポジウム提言案 | 7 |

2020年1月18日

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会事務局

1. プログラム (総合司会 谷下 雅義 中央大学理工学部教授)

スケジュール	プログラム	講演	所属
13:30～13:35	大臣・知事メッセージ紹介	学生 有志	
13:35～13:45	活動報告	細見 寛	事務局
13:45～14:15	基調講演 「武蔵野台地の水環境」	河村 明	首都大学東京大学院 教授
14:15～15:05	我が町の100選報告 ①玉川上水上流区間 ②玉川上水中流区間 ③玉川上水下流区間 ④外濠 ⑤日本橋川 ⑥三田用水	萩本 悦久 鈴木 利博 小山 裕三 高道 昌志 工藤 哲夫 梶山 公子	玉川上水の自然保護を考える会 学び舎江戸東京ユネスコクラブ NPO新宿環境活動ネット 首都大学東京都市環境学部助教 日本橋 水辺再生研究会会長 渋谷川・水と緑の会代表
15:05～15:15	玉川上水分水網関連遺構100選講評	陣内 秀信	法政大学特任教授
15:15～15:25	休憩		
15:25～16:00	意見交換質疑 (司会 谷下雅義 中大教授) 「玉川上水系保全再生への道」	濱野 優至 田中 咲 合田 明弘 高道 昌志 西村 弘 工藤 哲夫	中央大学大学院理工学研究科修士2年 法政大学大学院デザイン工学研究科修士2年 中央大学大学院理工学研究科修士2年 首都大学東京都市環境学部助教 玉川上水ネット代表 日本橋 水辺再生研究会会長
16:00～16:20	「玉川上水系保全再生へ」 全体講評	山田 正	中央大学理工学部 教授
16:20～16:25	「玉川上水系保全再生への提言」	学生 有志	
16:25～16:30	閉会挨拶	田畑 貞寿	千葉大学名誉教授 玉川上水・分水網保全再生連絡会代表

2. 国土交通大臣・都知事のメッセージ

(1) 国土交通大臣 赤羽 一嘉 様からのメッセージ

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会第4回シンポジウム「玉川上水系(玉川上水・分水網・外濠・日本橋川) 保全再生への道」が開催されるにあたり、お祝いの言葉を申し上げます。

本日、御列席の皆様方におかれましては、日頃より国土交通行政、とりわけ水循環施策の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

水は、生命の源であるだけでなく、古くから人々の営みの基礎として、社会、文化、経済の繁栄を支え、私たちの生活に大きな「恵み」を与えてまいりました。

その一方で、水は、時として洪水や渇水などの「災い」をもたらします。気候変動の影響等が指摘される中、昨年も台風第15号、第19号をはじめ、全国各地で多くの自然災害が発生しました。これらの災害により犠牲となられた方々に対して謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、水害が激甚化・頻発化する一方で、渇水も依然として私たちの暮らしを脅かしています。昨年は幸いにも断水等の深刻な事態には至りませんでした。5月には愛知県の豊川水系宇連ダムが一時的に貯水率ゼロになるなど、全国14水系15河川で取水制限が実施されました。

このような水のもたらす「災い」を減じつつ、将来にわたって水の「恵み」を享受していくため、私たちの生活や経済活動に果たす水の役割と、自然環境に果たす水の役割のバランスを適切に保つこと、すなわち、健全な水循環の維持・回復が必要です。

そのためには、水循環全体の姿を捉え、水の様々な問題に関係者が一体となって適切な対応策を講じていくとともに、私たち一人一人も、普段触れている水に対して意識を持ち、これを流域での様々な取組につなげていくことが大切です。

玉川上水・分水網、外濠、日本橋川等の保全再生につきましては、流域で研究や諸活動に取り組まれている大学、市民団体、地元の皆様がネットワークをつくり、情報共有しながら活動されていると伺っております。水でつながる地域の歴史や文化を学び、次世代に継承していくことは、将来にわたり健全な水循環を確保する上で極めて重要です。本日のシンポジウムの開催は誠に意義深く、皆様の取組に深く敬意を表す次第です。

政府といたしましても、水循環に係る具体的施策を効果的かつ効率的に推進するとともに、その重要性への理解と関心をより一層深めていただくことを通じて、貴い水が健全に循環する社会が実現することを目指して、国民の皆様とともに行動してまいりたい所存です。現在、水循環政策の基本である水循環基本計画の見直しについて、今年夏頃の閣議決定を目指して進めております。

つきましては、皆様方をはじめとする関係者お一人お一人に一層のご支援を頂きますように、改めましてお願い申し上げます。

結びに、本シンポジウムの御盛会とご参集の皆様方のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和2年1月18日

国土交通大臣・水循環政策担当大臣

赤羽 一嘉

(2) 東京都知事 小池 百合子 様からのメッセージ

「玉川上水系保全再生への道」に関するシンポジウムの開催、誠にありがとうございます。

本シンポジウムの開催は、江戸の昔から「水の都」として発展してきた東京にとって、大変意義深いことと思います。関係者の皆様のこれまでの御尽力に、深く敬意を表します。

さて、東京都は、昨年末に『未来の東京』戦略ビジョン」を策定し、「成長」と「成熟」が両立した目指すべき東京の姿や、将来に向けた目標と取り組むべき政策の柱を提示するとともに、これらを実現するための核となる主要な事業をお示しました。

この中で、水の都にふさわしい、まさに潤いを与える東京を実現するために、歴史的財産である外濠の水質改善を進め、都心で働く人々に癒しの場を提供するとともに、品格ある景観の形成による地域全体の活性化を図っていくこととしており、その具体化に向けた検討を進めてまいります。

今回のシンポジウムにより、都民をはじめとする多くの皆様の間で、東京における良好な水環境の形成に向けた気運が一層高まることを期待しております。

結びに、本シンポジウムの御盛會と、本日御列席の皆様のお益々の御健勝、御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和二年一月十八日

東京都知事 小池 百合子

3. 三大学総長・学長から東京都知事への提言

令和元年 9月 17日

東京都知事 小池 百合子 殿

外濠・日本橋川の水質浄化と 玉川上水・分水網の保全再生について（提言）

法政大学 総長 田中 優子



東京理科大学 学長 松本 洋一郎



中央大学 学長 福原 紀彦



貴職におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、私共の大学は江戸城外濠周辺にキャンパスを構えております。そのため、外濠は日常的に接しており、保全再生するための研究を行なっておりました。とりわけ、腐臭を放つアオコを持続的に抑制するために必要なメカニズムについて、その解明に取り組んでおります。

東京都では現在、緊急的に外濠の浚渫、下水道の一時貯留などの対策に取り組まれております。しかしながら、その効果は一時的、限定的であることが科学的に予見されており、研究者として長期的に持続可能な方策を早急に講ずべきと考えております。

もともと外濠の水は、江戸時代に開削された当初から多摩川の羽村で取水された水を開水路で四谷大木戸まで流し、そこから江戸上水道の一部を流入させることにより維持されてきたものです。羽村から玉川上水・外濠・神田川から隅田川に至る約53kmの水の流れは、位置エネルギーだけで流下する東京の水の大動脈とも言えます※添付資料1。この大動脈は、江戸の水道のみならず武蔵野の新田開発、社寺・屋敷の泉水や濠の維持、さらには舟運などにも寄与していた、まさに「水の都・江戸」を支える水資源でもありました。

そして、江戸の中心地として栄えた日本橋川には、外濠のアオコが神田川を経由して流れ込んでいることがわかっています。私たちは、この水の大動脈の復活こそが東京を持続可能な都市として維持し、日本橋を世界に誇れるエリアにするためにも不可欠と考えております。

以上のことについては、当3大学に東京大学、日本大学を加えた5大学で組織する「水循環都市東京シンポジウム実行委員会」や玉川上水から日本橋までの多くの都民が関わる「玉川上水ネット」、「日本橋水辺再生研究会」等の団体が協働して、これらの河川の再生に関する啓発活動を進めております※添付資料2。

また、都議会においても、外濠の水質浄化策に関する質疑が行われたと聞き及んでいます※添付資料3。これらの多角的な活動の成果として、東京都では検討会を組織したと聞き及んでいますがその成果については不透明であり、現時点では、明確な方向性が示されていないと理解しております。

既に、令和の新しい時代の幕が開きました。さらに来年は「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。この時代の大きな転換点に当たって「持続可能な都市東京」の水の大動脈の再生に向けて、次の三点についてご高配いただきたく提言いたします。

一、玉川上水・外濠・日本橋川に多摩川からの河川水を導水することにより、水質の浄化、水循環の改善、沿川の防災水利の確保、自然・歴史文化の保全再生等、多面的な役割を果たすグリーンインフラとして位置づけ、東京都の将来構想の施策として取り組んでいただきたい。

二、特に、東京オリンピックマラソンコースの一部でもある「外濠」、再開発が急速に進められている「日本橋川」については、河川水を試験的に通水するなどして、早急に水質改善の方策を講じていただきたい。

三、上記、玉川上水・外濠・日本橋川等の水質改善、維持管理等の検討については、大学、研究機関、さらに市民（団体）の知見を集約するとともに、長期的な視座に立って効率的な運営を実現するための協働体制確立のために、委員会等の設置を提案いたします。

以 上

(事務局)

福井 恒明 (Tsuneaki Fukui)

法政大学デザイン工学部教授 都市環境デザイン工学科 景観研究室

〒162-0843 新宿区市谷田町 2-33

TEL : 03-5228-1446 FAX : 03-5228-1446

E-mail : fukui@hosei.ac.jp

山田 正 (Tadashi Yamada)

中央大学理工学部教授 都市環境学科 河川・水文学研究室

〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27

TEL : 03-3817-1805 FAX : 03-3817-1803

E-mail : yamada@civil.chuo-u.ac.jp

4. 第4回シンポジウム提言（案）

私達は、これまで身近な河川・濠・水路等の環境悪化を憂慮し、東京の各地域で保全再生活動に取り組んでまいりました。しかし近年、水辺環境の再生には江戸から東京へと受け継いできた水の大動脈である玉川上水・分水網等の流れを復活することが不可欠であるとの思いを強く抱くようになりました。このため、2016年に多くの大学研究者、関連市民団体と連携し「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会」を設立し、シンポジウムの開催や関係機関への提言をおこなってまいりました。

幸いにも2019年12月に発表された東京都「未来の東京」戦略ビジョンでは『「水の都」として栄え、玉川上水の清流や豊富な緑が保全された江戸時代の東京』として再評価されるに至りました。

この方針をより確かなものとし、玉川上水を軸とした多摩川からの水の流れを復活させるため、次の事項を提言いたします。

1. 玉川上水の試験的通水による外濠・日本橋川等の水質浄化の促進

東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、多摩川から玉川上水へ導水し、再開発が進む外濠・日本橋川、渋谷川等の水質浄化と水辺環境整備を促進すべきと考えます。

玉川上水からの導水には、水路の環境に与える影響、維持管理の方策等多くの課題が予見されます。このため、徐々に水を流しながらその影響を研究者、市民と協働しつつ計測、評価する「見試し」による導水が適切であることを提言します。

2. 玉川上水域の水循環再生計画の策定と緊急時防災水利等の確保

羽村から隅田川に至る玉川上水系(玉川上水・外濠・日本橋川等)は東京の水循環の基軸の一つです。この流れを基本に、分水網・中小河川を含む区域を玉川上水域として一体的にとらえた「(仮称)玉川上水域水循環再生計画」の策定を提言します。

さらに、この水循環再生計画にもとづき、自然に流下する玉川上水の水を緊急時の水利としても活用し、災害に対するレジリエンス(回復力)の強化を促したいと考えます。

3. 玉川上水域の水循環再生から世界に誇れる水と緑の回廊づくりへ

緊急時の防災水利等の確保に加え、玉川上水域の水利条件に応じた水路環境整備や分水と連携した池泉、湧水、中小河川の環境改善を促すべきと考えます。このため、玉川上水域の水路や関連遺構等の保全再生等が重要であることを提言します。

4. 玉川上水域全体の保全再生を促進するための協議会等の体制づくり

「(仮称)玉川上水域水循環再生計画」策定のための関連自治体、研究者等による協議会や市民との協働による玉川上水域の水流・水辺環境の維持管理や利活用の体制づくりを提言します。

以上

令和2年1月18日

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

第4回シンポジウム 参加者一同

第4回シンポジウム提言(案)参考図

